



▲大盛会のうちに迎えたフィナーレの中で、あいさつする実行委員たち(昨年の同窓会から)

同窓会だより

福岡県立山門高等学校

〈第2号〉

発行：山門高校同窓会
平成11年4月1日
事務局：山門高校内
TEL62-4105



山門高校同窓会会長

板橋元昭

事務局体制の充実を

若草萌える季節となりました。山門高校同窓生の皆様には、お元気で各方面で、ご活躍のこととお慶び申し上げます。いよいよ今年の総会も間近に迫りました。多くの恩師の先生方はじめ同窓生の皆様は是非、御参会いただき、楽しく賑やかな会になるようお願いを込めておられます。

てしまいました。昨年よりは少しも充実したものを、と考えておりましたけれども、その時々配慮不足で記録や写真等の資料がほとんど手元がありません。やむをえず僅かの材料をもとに作成いたしましたので出来栄えについてはご容赦いただきたいと存じます。

さて、昨平成十年四月一日に初めての「山門高校同窓会だより」を発行いたしました。月日の経つのは早いもので、もう一年を過ぎました。今年の四月一日発行の同窓会だよりを作ろうとして「ハタ」と困っ

このような反省に立ち事務局体制を振り返りながら同窓会の日常業務として同窓会の目的である各種事業等を円滑に進めるには現在のままであるに心もなないものを感じております。同窓会名簿も前回(昭和六十二年)発行してすでに十二年を経過

強い絆で同窓会の発展を

山門高校同窓会副会長 野林重信

いたしましたので、新名簿発刊の必要性にも迫られております。また現在、実活動が停滞中の関東、関西、福岡等の支部の活発な活動をうながすと同時に同窓生の消息についても日頃、情報収集、管理を密にして同窓生の皆様に提供し、ご利用いただくことが大事であります。このようなことから同窓会が書類、資料の保管、会議等に利用できる場所の確保と事務局体制の充実を当面の課題として、取り組んでまいりたいと思っております。

少子化傾向が続く今日、県内の高等学校は生徒数の減少により、将来の山門高校がその渦中に巻き込まれるようなことがあってはなりません。同窓会の活躍は、母校の社会的立場を堅固にするものでありますので、山門高校同窓生各位のご理解とご協力をお願いし、ご挨拶いたします。



野林重信副会長



江崎鈴子副会長



鹿田久子副会長

我が山門高校は、清流矢部川の悠久の流れの辺り歴史を重ねて八十七年。その間一万九千余名の卒業生を生み出しました。新制高校発足による男子卒業生も四十八回を数え、私の家でも二

人の子供が本校に学び御無沙汰していた母校に訪れる機を得、同時に同窓会総会にも参加する様になり、早いもので十六、七回にもなりました。当初の頃は同期生の参加も僅かでしたが年を追う毎に増え、卒業四十周年同期会、更に還暦記念一泊旅行を雲仙書見舞を兼ねて行う等の交流を一年一回以上行う迄になりました。

者が集い、熱気溢れる会となります。こうして総会に参加し、在校生諸君が勉学はもとより、スポーツや文化活動に懸命に頑張っている現状を知り、又同窓生の皆様の各界各層に於ける御活躍を見聞しますに及び、母校への愛着は深く、いとしいものとなってまいります。母校を巣立った私達同窓生が、これからの山門高校を更に発展させる役割を担って、至誠、信愛、創造をモットーに輪を強い絆で結び役割を果せる事を念じています。

少子化の中で

魅力ある学校創りを



福岡県立山門高等学校校長

吉田 寛

「目には青葉山ほととぎす初懸」
古人の句が浮かんでくるような心地
よい季節を迎えておりますが、同窓
会長の板橋様はじめ同窓会会員の皆
様には、日頃から諸事にわたり御支
援を賜り、心から感謝申し上げます。

本校は、明治四十五年に初代校長
の阿部金雄先生が就任されてから、
平成十四年で九十周年を迎えます。
その長い歴史には、幾たびもの盛衰
があったことと思いますが、今も大
きな変遷の時にあるのを感じます。

私は昭和三十八年に初任者として
本校に参りましたが、当時は三年生
が五クラス、二年生が六クラス、一
年生が七クラス、翌年の入学生は八
クラスと年々学級数も増え、一学級
の生徒数も五十六人と多く、教卓の
すぐ近くまで生徒の顔が迫っていた
ことを覚えております。

ピーク時には、一学年の生徒数が
四百三十九人(昭和四十二年卒業)
でしたが、近年は、少子化現象が顕
著となり、平成十年三月の卒業生ま
でが八クラス、今年の卒業生と今の
三年生は七クラス、二年生と一年生
は六クラスとなり、来年は、全学年
六クラスに揃うものと思われます。
生徒数も、現一年生は、二百三十
五人と、ピーク時のほぼ半数になっ
ており、生徒急増期に本校に勤めた

者としてしましては、今昔の感を覚えま
す。

学校規模は年々小さくなっており
ますが、山門高校の良き伝統は脈々
と続いており、生徒達は、早朝の補
習から放課後の部活動まで、真摯に
元氣いっばい頑張っております。
進路の成績は、この三カ年の平均
(過年度卒も含む)では、国公立大
学三十八名、私立大学三百二十名、
短期大学八十九名、看護学校三十三
名、専門学校六十七名、公務員二十
名、就職三名となっております。

部活動なども、平成十年度は、陸
上(走り高跳び)で難波麻美さんが
インタハイに出場、弁論では三村愛
香さんが全国大会三位、郵政省が主
催する作文コンクールで新原レビさ
さんが文部大臣奨励賞を受賞するなど
全国レベルでの活躍もありますし、
ボランティアでは、Sクラブのフラ
ワーシンフォニーなどが地域の方々に
好評を得ております。

このような生徒達の実績により、
本校の評判は良く、普通科一般では、
推薦入試で果下一の倍率になりました
し、一般入試でも筑後地区で二番
目の倍率でした。
施設・設備も年々充実しており、
既に校舎改修の第二期工事まで済み、
今年度は、第三期工事として西棟の

改修、来年度には、第四期工事とし
て体育館の改修が予定されています。
本校は、このように、内容外観とも
充実してきており、落ち着いた雰
囲気の中で教育活動が行われており
ますが、課題が無いわけではありま
せん。それは、更に進む少子化にと
う対応していくかということです。

試行錯誤を繰り返しながらも、魅
力ある学校創り、特色ある学校創り
に努め、しっかりと進路達成によ
り、地域の期待を果たしていく以外
に道はないと信じます。

そのために、職員一丸となって頑
張りますので、皆様の一っそう温か
い御支援と御協力を切にお願いして
ご挨拶といたします。

急ピッチ大規模改造工事
立派な校舎に変身

本校の大規模改造工事は、平成九
年度にスタート、第一期工事では管
理棟がきれいに整備されました。

二期目にあたる今年度は、東側校
舎及び中庭校舎の工事が急ピッチで
進められています。東側校舎にはバ
ンコン教室、L1教室、保健室、生
物実験室等が、また中庭校舎には応
接室、放送室等があり三月末には見
違えるほど立派な校舎に生まれ変わ
ります。

この工事は、平成十一年度以降も
引き続き行われ、南側校舎及び体育
館が順次整備される予定です。
(川村喜一郎事務長)

心の教育

第9回生 瀬口 一利
(前福岡県立柳川盲学校校長)

目とを合わせ微笑み語りかけること
です。乳児期に微笑み語りかけるこ
とが、にこやかな笑顔のある心豊か
な子供を育てる第一歩であると思っ
ています。

宮本武蔵は、剣の修行のなかで、
次のように述べています。「千日の鍛
練、万日の錬磨」。剣の道での修行で
は、体力的鍛錬は三年間必要だし、
精神的心の錬磨は三十年間必要だと
言っているのです。心の修行は生涯
かかるということです。

私たちは、心の中を覗くことは出
来ません。錬磨の度合いは、その人
の言動によって判断されるものだと
思っております。人の言動は、その
人の人格が表現されます。結局「智
情・意」と言うことになりました。よ
く考えて判断し、思いやりのある行
動をとることです。子供に安心感
を与え、信頼関係を築き、高学年にな
るに従い心と体を鍛錬し、そして練
磨していくことだと思っております。

青年期は、心の悩みを打ち明ける親
友がいるかいないかによって葛藤や
ストレスの解決に大きく左右します。
私たちには、心の恩師、学習指導
の恩師などがありました。寝食を惜
しみながら学習指導をしてくださっ
た先生、進路指導を泣きながら叱咤
激励してくださったあの先生、私た
ちと一緒に汗水を流しグラウンド整備
をしてくださったあの先生等等、感
動するような指導でありました。こ
の体験が心の教育だったと思ってい
ます。優しく、遅し、そして、耐
えることの大切さを指導していただ
いたことに感謝いたします。今では、
故人となられた先生方に心から「冥
福をお祈りし、ペンをおきます。

今日の社会は、急激な変化をして
います。行政では、景気回復に向け
て全力を尽くして推進されています。
一方、学校教育では、豊かな心を育
む「心の教育」の充実が取り上げら
れています。生命を尊重する心、他
者を思いやり、美しいものや自然等
に感動する心、豊かな人間性の育成
が叫ばれているのです。

我が母校の校歌の歌詞に、「信愛の
情」があり、また校訓にも「至誠、
信愛、創造」が掲げられています。心
の教育の原点は、乳児期における親
の愛の刷り込みを、繰り返し繰り返し
し行うことであると思っております。
例えば、親が乳児と添え寝し、目と

【平成11年度教職員の異動】

- 《退職》
- 中垣 立一路 保健体育
 - 鶴 悦子 英語
- 《転出》.....(カッコ内は転出先)
- 大雄 信英 教頭 (県教委人事管理主事)
 - 江口 政典 教諭 (県教委指導主事)
 - 稲益 則久 事務次長 (朝羽高校事務長)
 - 中崎 満弘 教諭 (八女工業高校)
 - 島村 崎津 教諭 (明善高校)
 - 松本 洋一 教諭 (大牟田北高校)
 - 松山 山 教諭 (八女高校)
 - 武基 基 教諭 (浮羽工業高校)
 - 杉本 正 教諭 (八女高校)
 - 木下 文 教諭 (黒木高校)
 - 鹿田 太 教諭 (三池高校)
- 《転入》.....(カッコ内は前任校)
- 石橋 信太郎 教頭 (筑紫丘高校)
 - 池田 敏夫 教諭 (久留米筑水高校)
 - 石動 丸 教諭 (大川高校)
 - 深川 義保 教諭 (明善高校)
 - 西田 美和 教諭 (八女高校)
 - 木本 内 教諭 (明善高校)
 - 竹内 日出 教諭 (小郡高校)
 - 藤本 忍 教諭 (直方高校)
 - 坂井 淑子 主任実習助手(久留米高校)
 - 宮本 博 事務次長 (大牟田南高校)
 - 木庭 和 主事 (大川高校)
 - 石橋 綾 常勤講師

平成10年度卒業生代表 同窓会を発展させたい



第51回卒業生
内山 山 毅

今年の3月1日、私達は山門高校を卒業し、進学・就職等、人それぞれ違う道へ歩んでいきます。私は就職という道を選び社会へ出ることとなりました。おそらく学校に行くこととはもうないでしょう。しかし、それは勉強をしなくなることはありません。

私はこの高校に3年間通い、様々な事を学んできたつもりです。ただ感受性の違いからか、同じことを学んでも人それぞれ理解のしかたが違います。ましてや、これから異なる道を歩んでいく友人もたくさんいます。そのような友人から私は色々話を聞きたいと思っています。そうすれば、何かの時に仕事の参考となるかもしれませんし、何より自分というものを高めることができるでしょう。

ただ、私達は高校を卒業し、それぞれ自分の道に歩き出している、会う機会もめっきり減ってきているようです。これから時間がたつにつれてますますその機会も少なくなってしまうでしょう。何もなければ一生会わない人もいると思います。

しかし、私達卒業生一同は、同窓会に入会しました。今後は同窓会が会う機会をつくってくれるものと思っています。

平成10年度卒業の評議員と幹事

- 《評議員》
- 内山 毅(大木町) 3年7組
 - 田中 久美子(柳川市) 3年2組
- 《幹事》
- 3年1組 後藤 良太(瀬高町)
 - " 池松 香織(城島町)
 - 3年2組 松永 大吾(柳川市)
 - " 田中 久美子(柳川市)
 - 3年3組 松藤 憲一(大和町)
 - " 田中 茜(瀬高町)
 - 3年4組 荒川 清和(瀬高町)
 - " 西夏 美(三橋町)
 - 3年5組 高巢 博敏(三橋町)
 - " 上原 麗香(山川町)
 - 3年6組 森永 聡一郎(三潁町)
 - " 田中 恵(大川市)
 - 3年7組 内山 毅(大木町)
 - " 坂田 瞳(瀬高町)



進路指導主事
大津 二三雄

10年度の進路状況

国立大は、卒業生が前年度より1クラス減となったにもかかわらず、合計30名と前年度、前々年度に続き30名台に乗せることができた。私立大は、福岡を中心とする地元志向が強まっている。1人当たりの受験校数も以前より減っているが、福岡大15名、九州産業大35名、久留米大27名等とよく健闘した。

短大は、受験生そのものがここ数年減少している。資格、実学志向で専門学校を志望する生徒が増えている。

就職に関しては、企業就職を希望する生徒はここ数年若干名だが、公

過去5年間の現役生の合格者数

	平成10年度	平成9年度	平成8年度	平成7年度	平成6年度
卒業生数	273	311	318	312	303
国立大学	30	33	36	27	27
私立大学	191	289	264	143	182
短期大学	76	78	102	99	103
看護専門学校	19	27	37	19	26
医療系専門学校	8	12	16	8	13
その他専門学校	49	44	59	54	48
一般就職	4	3	2	2	8
公務員	13	9	11	14	18

務員を志望する生徒は例年15名前後に留まっているが、この春の卒業生も就職、郵政外務等に合格するなど山門の伝統を引き継いでくれた。

山門高校同窓会

3月 今年も多彩なイベント

本年も五月三日に山門高校の同窓会総会が開催されます。同窓会総会は毎年、満40歳になる学年が「当番学年」として、約一年間かけて準備をしています。

本年も地元に残っている人たちが中心に約20名の実行委員会が組織され、総会、講演会、懇親会等の企画や準備を行っています。

本年は記念講演会としてタニエル・カール氏をお呼びし、「私の好きな日

同窓会を

無事に終えて

一九九八年五月三日、前日からの雨も朝方には何とか上がり、心配していた同窓生の皆様の出席もよく、ホッと一安心。一年前から手探り状態で同窓会の準備に取り組んだところですが、同期生

一人ひとりの協力によって無事、総会を大成功させることが出来ました。

同窓会総会のお世話には、生涯一度きりですが、この一年間の活動を通じて高校時代とは比べようもない堅い絆が生まりました。

これらは私たちにあって、かけがえない財産となり、これからの人生に大いに役立つものと確信しています。このような機会を与えて下さった同窓会に対し、深く感謝いたします。

また、総会の運営に当たり、理事の皆様や学校関係者の方には、ご迷惑をおかけいたしました。温かく受け入れてもらい、ご協力いただいたことに深く感謝いたします。
(前実行委員長・越智明彦)



あの口、この口、懐かしい頃

福岡県立 **山門高校** 同窓会総会
 平成11年5月3日(祝) 山門高校体育館
 2,000円

板橋元昭氏(9回)県議会議長 鬼丸岳城氏(19回)瀬高町長に

第九回卒の板橋元昭氏が、昨年五月二十五日の臨時県議会で第51代議長に就任いたしました。筑後南部地域から戦後初の議長誕生でした。また、第十九回卒の鬼丸岳城氏が今年一月二十四日に行われました瀬高町長選で初当選を果たされました。両氏とも伝統ある山門高校に新たな歴史の一ページを付け加えてくれました。両氏の今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。(事務局)

■ 訃報 ■

山門高等学校同窓会の副会長、乗富喜久子様が昨年十一月九日急逝されました。享年六十六歳でした。

長きにわたり同窓会の理事として熱心に運営に携わり、またご指導をいただきました。その経験と情熱をさらに活かしていただくため、昨年五月に副会長にご就任され、これからは真の出番というときの訃報だっただけに役員一同、大きな悲しみに包まれました。

これからは故乗富副会長のご遺志に背くことないよう同窓会の運営にあたって参りたいと新年度を迎えた今、役員全員気持ちを新たにしているところで、ここに謹んで哀悼の意を表し、衷心よりご冥福をお祈り致します。

山門高等学校同窓会
 会長 板橋 元昭
 合 掌



今年も素晴らしい同窓会に準備に追われる実行委員のメンバー

同窓会役員会名簿

会 長	板橋 元昭(学年理事)
副 会 長	野林 重信()
	江崎 鈴子()
	鹿田 久子()
理 事	川龍 彰()
	難波 彰()
	辺春 英雄()
	富田 トミ子()
	千田 忠雄()
	廣田 愛明()
	上津 原武次()
	野田 公明()
	樺島 正文()
	石橋 信昭()
	藤木 昭義()
	板橋 正勝()
	木下 宗信()
	山城 正義()
	川口 千利()
	井上 正文()
	江上 慎介()
	瀬口 義夫()
	本多 賢次()
	田崎 剛()
	中川 圭二()
	越智 明彦()
	金子 隆子(全体理事)
	白石 小夜子()
	中山 里美()
	高巢 昌子()
	宮本 英雄(校内理事)
	中村 辰男()
	木本 和宏()
顧問	吉田 寛(学校長)
監 事	内田 登美子
	高田 喜道
	庄村 修身

このほか84名の評議員の皆様が、同窓会の運営を支えて下さっています